

令和8年10月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

東部地区漁業士会と県行政との意見交換会が開催されました

9月25日、東伊豆町稲取で東部地区漁業士会と行政との意見交換会が行われました。この会は、地区の漁業者の取組や課題を行政側に知ってもらい、課題解決に向けた意見をお互いに出し合う場として年1回開催しています。

今年度は黒潮大蛇行が終息して一年経過後の意見交換会となりました。当场職員から「磯焼け対策活動の促進 ブダイ、ウニを漁業収益に!」、「黒潮大蛇行終息後のキンメダイ漁模様が標識放流」について話題提供を行い、それぞれ地域の状況や取組の進捗状況、今後の課題等についての意見交換が行われました。

最後に、漁業者全員が関わる課題として「今後の燃油供給の見通し」について、地区役員から意見が出され、燃油高騰が一次産業全体の課題となっていること、県内や東部地区内の供給状況

等を全体で共有しました。

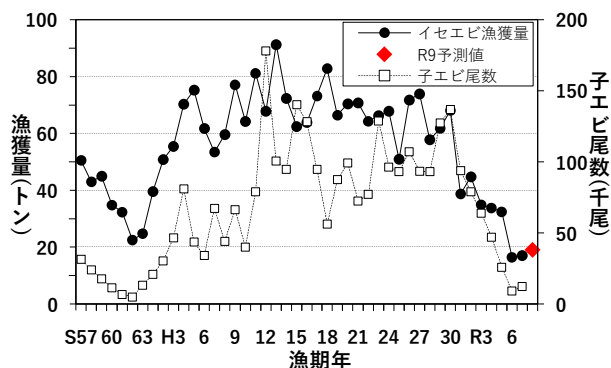
東部地区漁業士会は、伊東から西伊豆まで広範囲に会員が所属し、様々な操業形態を持つ組織です。行政だけでなく地区漁業士同士の交流も図られるこの機会を、今後も有効に活用していただきたいと思います。



上：岩瀬会長による開会挨拶、下：話題提供の様子

イセエビの漁況予測

本県のイセエビ漁期は9月16日～翌年5月14日です。当场では、毎年イセエビ漁期の前に下田・南伊豆地区の漁況予測を発表しています。漁獲量と子エビ尾数は、令和に入ってから減少傾向が顕著であることがわかります(下図)。今漁期の予測は漁獲量と子エビ尾数との関係から19トンと予測しました。伊豆半島南部沿岸では磯焼けが継続しており、子エビの生残りへの影響が心配されます。今後の動向を注視していきます。



地元小学生「イセエビ」を学ぶ

当场では、伊豆地域の子供たちに地元の海の生物や水産業に対する関心や愛着を持ってもらうことを目的に、見学や特別授業の受入れを行っています。9月15日、下田市立浜崎小学校からの依頼を受け、4年生を対象に、伊豆を代表する魚介類「イセエビ」をテーマに特別授業を行いました。イセエビの生態や漁業についての講義をした後、実際にイセエビを触って雌雄の違いを観察させたり、イセエビを漁獲する「刺網」という漁具の実物を見せたところ、子供たちは興味津々でした。当场は、今後もこうした取組を継続し、子供たちが伊豆の海を好きになるお手伝いをしていきたいと思います。

イセエビ
観察の様子→



10月の予定 ●潜水調査(白浜、稲取ほか) ●キンメダイ種苗生産試験 ●イセエビ測定(下田、南伊豆) ●イカ類資源評価協議会(神奈川県1-2日) ●漁業士会役員会(県庁5日) ●資源海洋調査研究会(高知県8-9日) ●第2回静岡県海業本部会議(愛媛県愛南町視察7-9日) ●栽培基本計画事務局長会議(県庁9日) ●マダイ太平洋中部担当者会議(Web9日) ●駿河丸キンメダイ漁場地形調査(28-29日)

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。